十勝管内地域いじめ問題等対策連絡協議会便り

令和６年３月１日発行　発行：十勝管内地域いじめ問題等対策連絡協議会事務局

令和５年度第２回十勝管内地域いじめ問題等対策連絡協議会

令和６年１月18日（木）、十勝総合振興局において「令和５年度第２回十勝管内地域いじめ問題等対策連絡協議会」を開催しました。今回は、帯広市教育委員会から実践発表をしていただきました。その後、今年度の成果と課題を踏まえた次年度の方向性について、協議を行いました。

令和５年度のテーマ

いじめへの対応を充実させるために、学校・家庭・地域みんなで子どもを支える取組の推進

～「困った、助けて」と言える環境と小さなサインをみんなで受け止める環境の充実を通して～

今年度の調査結果から見える取組の成果

○　「いじめの適切な認知の重要性」が浸透し、学校いじめ対策組織による認知件数が大幅に増加

○　「いじめはどんな理由があっても許されないことだと思う」と回答した児童生徒数の割合の増加及び「よく分からない」と回答した児童生徒数の割合の減少（小・高・特）

成果の要因

○　十勝管内の各学校における、各種アンケートなどを用いた「困った、助けて」というサインを見逃さないための積極的な取組

○　児童生徒が主体となった子ども会議等の実施

実践発表「帯広市における子ども会議の成果等について」

～帯広市小中学生いじめ・非行防止合同サミット及びファミリー・サミットの取組から～

帯広市教育委員会学校教育指導課指導主事　河　江　邦　教　氏

- 各学校において、いじめの認知率向上と教職員のいじめを見逃さない姿勢が共有され、小中学生いじめ・非行防止合同サミットや中学校区毎に行うファミリー・サミットなどを通じて、いじめを生まない環境作りが進められており、活動スローガンを通じた協議や取組が行われた。
- ファミリー・サミットでは、小・中学校が連携し、小中学生合同サミットで決めたスローガンから各エリアの課題に応じた焦点化した取組を実施した。
- 「いじめはどんなことがあっても許されない」と回答する児童生徒の割合が、継続して全国より高く、小中学生合同サミット、ファミリー・サミット等の子ども主体の取組から、自己指導能力の育成につながった。
- 各エリアの取組を全体に共有することや持続可能なエリアの独自性を生かした取組を構築していくための教職員の体制づくりが必要である。

今年度の取組の課題

- 学校間・市町村間における適切ないじめの認知や未然防止に係る取組の差
- 「いじめはどんな理由があっても許されないと思いますか」の設問に「そう思わない」、「よく分からない」と回答する児童生徒への指導
- 「嫌な思いをしたときに誰に相談しますか」の設問に対して、「誰にも相談しない」と回答した児童生徒の増加

「今年度の成果と課題を踏まえた次年度の方向性について」

【事務局から】

- 地域の実態等に応じたいじめの早期発見、早期対応、未然防止に係る組織的な取組の一層の充実やいじめの正しい理解を深める取組の充実させる必要がある。
- 学校や家庭、地域が連携した「困った、助けて」と言える環境と小さなサインをみんなで受け止める環境を充実させる必要がある。

【協議から】

- アンケートにおいて、「そう思わない」、「よく分からない」と回答している10％の児童生徒をターゲットにした取組を充実させてほしい。
- いじめも含め、様々な子どもを取り巻く問題に対し、重層的な連絡体制、指導体制を構築することを早急に検討する必要がある。
- 非常に重要な問題であるいじめの問題に対し、本協議会における協議の時間が不足しているとともに、議論の方向性も含め、協議会のもち方を工夫していただきたい。